

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19H00538

研究課題名(和文) 東南アジア「古代史」の下限としての14・15世紀に関する地域・分野横断的研究

研究課題名(英文) Cross-regional and Cross-disciplinary studies on Southeast Asia in the 14th and 15th Centuries as the End of the Ancient Era

研究代表者

青山 亨 (Aoyama, Toru)

東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授

研究者番号：90274810

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,800,000円

研究成果の概要(和文)：東南アジア史の14・15世紀を対象に、刻文・文献・考古学・美術史・建築史の各分野で基礎データを、現地の合同調査と文献調査により収集し、刻文・文献については絶対年代で、考古学・美術史・建築史については相対年代で年表を作成し、両者を統一的に取り扱える「統合年表」をオンライン上に構築した。当初は、収集済みの7～13世紀の基礎データと合わせて古代史全体を地域・分野横断的に俯瞰できる「統合年表」の構築を目標としたが、2年以上のコロナ禍のため合同調査・研究会が実施できず、限定的なテスト版を構築するにとどまった。他方、研究成果の社会還元に向けて『東南アジア古代史入門』を構想し、公刊への見直しを付けた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

15世紀中葉の東南アジアでは古典インド的原理に基づく古代的王国の没落とイスラームあるいは上座部仏教に基づく近世的王国の台頭が交差する。しかし、文献や刻文から得られる「コトバ」の資料の知見と、考古学、美術史、建築史で蓄積されてきた「コト」の資料の知見の間を架橋する共通のパラダイムが十分に確立していないことから、古代終末期の研究はいまだ不十分である。本研究は14・15世紀を対象に、東南アジア内の地域と専門分野を横断する形で基礎データを集成し、7～13世紀を対象に蓄積した研究成果と統合することで、両者の対話を可能とする共通の編年プラットフォームを構築し、東南アジア史の「古代」を再検討する道を開く。

研究成果の概要(英文)：Basic data in multidisciplinary fields were collected for the 14th and 15th centuries of Southeast Asian history through joint field surveys and literature research. For inscriptions and literature, an absolute chronological table was created, while a relative chronological table was developed for archaeology, art history, and architectural history. These two tables were integrated to form an online chronological platform that would provide a cross-regional and cross-disciplinary overview of the whole of ancient history by combining the basic data already collected for the 7th to 13th centuries. The project, however, was compelled to create a limited pilot version due to the suspension of joint surveys and research meetings for two years caused by the COVID-19 pandemic. In an additional effort to contribute the research findings to society, plans were made for an introductory book on ancient Southeast Asian history with prospects for its publication.

研究分野：東南アジア古代史

キーワード：東南アジア古代史 東南アジア考古学 東南アジア建築史 東南アジア美術史 東南アジア碑文史 東南アジア仏教美術史

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

東南アジア史の 14・15 世紀は、古典インド的原理に基づく古代的王国が穏やかに衰退していく一方で、新たに広がったイスラームあるいは上座部仏教を権力の正統性原理とする近世的王国が台頭し、グローバルな交流のなかで東南アジア諸国が動的に発展する、東南アジア史の「近世」が開幕する時代である。考古学、美術史、建築史の資料のみならず、刻文資料に加えて現地語による年代記等が文献資料として利用できるようになる。しかし、東南アジア古代史を通じて言えることであるが、考古学、美術史、建築史の物質文化の研究とテキスト(現地語の刻文や写本および域外の漢籍等)に基づく史料研究との間の対話は不十分であり、研究が十分に進展していないことが課題であった。

2. 研究の目的

上記と同様の問題意識をもって実施された科学研究費補助金・基盤研究(B)「東南アジア史における絶対年代と相対年代の統合に関する研究:7～10 世紀を中心に」(2013～15 年度)および「東南アジア史の統合的編年プラットフォームの構築「長い 12・13 世紀」を中心に」の研究を引継ぎ、14・15 世紀およびその前後の時代を対象に、相対年代を主とする物質文化研究と絶対年代を主とする史料研究の間での対話を可能とする統合的な編年プラットフォームをオンラインで構築することを目指した。

3. 研究の方法

物質文化研究を中心とする考古学・美術史・建築学の専門家と史料研究を中心とする文献史学・刻文学の専門家からなる文理融合の研究チームを構成し、東南アジアの代表的な遺跡・遺構を対象とした合同海外調査および研究会の実施を計画した。ただし、研究期間の半ばを占める 2020 年初めから 2022 年中頃までコロナ禍に見舞われ、合同海外調査および対面による研究会の中止を余儀なくされた。合同海外調査は 2019 年にインドネシアのジャワ島西部、カリマンタン西部・南部、ジャワ島東部を対象に、2022 年にカンボジアのプノンペン、コンポントム、アンコール、バンテアイ・チュマル、プリア・ヴィヘア、コーケーを対象に実施した。これらの活動を通じて、地域横断的に遺跡・遺物を臨地調査し、分野横断的な専門的知見の交換を行い、得られたデータ及び知見の編年プラットフォーム上での位置づけの検討を経て、オンラインでの実装を進めた。

4. 研究成果

コロナ禍により計画自体が大幅に縮小せざるを得なかったなか、以下の成果を上げることができた。第一に、古代史全体を地域・分野横断的に俯瞰できる「統合年表」の構築をめざす、統合的な編年プラットフォームについては、スモールスタートに方針を改め、時代を限定したテスト版のオンライン上での構築をおこなった。「統合年表」の主たる仕様は以下のとおりである。

1. 年代については、世紀、西暦、中国暦を基準にして時代・期間の指定を可能とする。なお、絶対年代としては漢籍および刻文に記載された年号を基準とする。
2. 地域については、インドネシア、カンボジア、タイ、ミャンマー、チャンパーを主たる地域として区分する。
3. 領域については、漢籍、刻文、彫刻、建築、考古を主たる領域として区分する。漢籍については、言及された朝貢国を地域として指定を可能とする。
4. 年代を指定したのち、地域、領域、フリーワードによる絞り込みを可能とする。

第二に、現地調査に基づく研究成果については、その一部を研究成果報告書として刊行するとともに、過去 2 期の科研の研究成果を含めた本研究チームの東南アジア古代史にかかわる知見を、学界および広く社会に還元すべく、『東南アジア古代史入門』(仮称)の刊行を構想し、公刊への見通しを付けた。本書の主要な構成は以下のとおりである。

第 1 部: 概論

1. 東南アジアの古代
2. 東南アジア古代史研究のあゆみ
3. 東南アジア古代史研究の視点

第 2 部: 各論(調整中)

1. クメールの刻文
2. アンコール朝の建築
3. アンコール朝の彫刻
4. アンコール朝の対外関係
5. インドネシアの宗教建築
6. タイの宗教美術
7. ジャワの刻文
8. マジャパヒトの対外関係
9. 陶磁器生産と流通

第 3 部: 史資料編

1. テーマ別主要文献目録
2. 主要文献解題
3. 工具書・データベースの紹介

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 青山亨、増井美佳	4. 巻 26
2. 論文標題 ブルボチョロコ著『古典ジャワ文学史入門』(5)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京外大東南アジア学	6. 最初と最後の頁 151-207
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15026/95680	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 田畑幸嗣	4. 巻 750750
2. 論文標題 海外考古学事情(16)カンボジア考古学の動向	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 29-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木川りか、秋山純子、原田あゆみ	4. 巻 16
2. 論文標題 タイ文化省芸術局における文化財修理の取り組みについて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東風西声	6. 最初と最後の頁 00-00
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 佐藤桂	4. 巻 1
2. 論文標題 ミャンマーにおける木造建築の天井について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 武蔵野建築研究所紀要	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山亨	4. 巻 775
2. 論文標題 東南アジア古代史の分野横断的研究へのアプローチ	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 月刊 考古学ジャーナル	6. 最初と最後の頁 41-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 AOYAMA Toru
2. 発表標題 The Sutasoma Kakawin in the context of Majapahit
3. 学会等名 International Webinar The Vibration of Majapahit (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青山亨
2. 発表標題 東南アジアの歴史を教えるための用語をどう考えるか
3. 学会等名 東南アジア学会研究集会「高大接続改革の中の東南アジア史」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青山亨
2. 発表標題 東南アジアにおける仏教の展開から見る仏教遺跡
3. 学会等名 東南アジア考古学会2020年度大会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤桂
2. 発表標題 ミャンマー・コンバウン時代の木造僧院本堂の寸法計画 『アマラブラ城サンチャウンドー文書』の研究(1)
3. 学会等名 日本建築学会大会(関東)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 AOYAMA Toru
2. 発表標題 Two Perceptions of Royal Response to the Introduction of Islam in Malay and Javanese Literary Narratives
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars, University of Leiden, Leiden(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 AOYAMA Toru
2. 発表標題 Five cases of 'death' in the Dandaka forest: Revisiting the Ramayana reliefs in Candi Prambanan
3. 学会等名 Simposium Internasional Bahasa dan Sastra Jawa Kuno, Malang(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 AOYAMA Toru
2. 発表標題 Sebuah Perjalanan Tekstual Pangeran Sutasoma: dari Teks Buddhis ke Kakawin Sutasoma
3. 学会等名 8th Borobudur Writers & Cultural Festival 2019, Magelang(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山亨
2. 発表標題 ジャワにおけるシャカ曆 インド化とイスラーム化をつなぐもの」東洋学・アジア研究連絡協議会シンポジウム「近未来の東洋学・アジア研究 王権・元号・曆
3. 学会等名 東洋学・アジア研究連絡協議会シンポジウム「近未来の東洋学・アジア研究 王権・元号・曆 」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田畑幸嗣、会下和宏、呉心怡他
2. 発表標題 ベトナム・ハイフォン大型漢墓の緊急調査と3D考古学の実践
3. 学会等名 日本考古学協会第85回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田畑幸嗣
2. 発表標題 南海交易と東南アジア産陶磁器の生産
3. 学会等名 第255回中近東文化センターアナトリア学勉強会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田畑幸嗣、下田一太、内田悦生他
2. 発表標題 カンボジア、サンボー・プレイ・クック遺跡群2019年度調査
3. 学会等名 第271回東南アジア考古学会例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 佐藤桂
2. 発表標題 ミャンマーの木造仏教僧院にみる多重屋根の歴史的変遷
3. 学会等名 日本建築学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岡崎伸哉、佐藤桂、西本真一
2. 発表標題 クメールの連子子
3. 学会等名 東南アジア考古学研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤桂
2. 発表標題 アンコール遺跡広域拠点調査 コー・ケーとベン・メアレア
3. 学会等名 アンコールから世界へ : アンコール遺跡保存修復事業協力隊結成25周年記念シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 青山亨
2. 発表標題 Bangsa and Wangsa: The emergence of the concept of 'nation' as seen in the use of bangsa in an early 19th-century Javanese court text
3. 学会等名 ジャワ語及び東南アジア諸語テキストにおける「イスラーム化」前期 2022年度第1回研究会 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 青山亨
2. 発表標題 九世紀ジャワの『ラーマーヤナ』受容に見る「現地語化」の諸相
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第73回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田畑幸嗣
2. 発表標題 Ancient Stoneware Production at the Koh Ker:Archaeological Investigation at the Kok Dei Chhnang Kiln from Jan. to Feb. 2022
3. 学会等名 The 7th Technical Session of the International Coordinating Committee for Preah Vihear（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田あゆみ
2. 発表標題 九州国立博物館の琉球コレクション -九博の取り組み-
3. 学会等名 沖縄復帰50年記念特別展「琉球 美とその背景」シンポジウム「守り継がれてきた琉球の文化～琉球コレクションの成り立ちと意義について」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 原田あゆみ
2. 発表標題 琉球・沖縄文化へのまなざし 沖縄学をめぐるひとびと
3. 学会等名 沖縄復帰50年記念特別展「琉球 美とその背景」講座「琉球の美術と文化を深める（招待講演）」
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 串田久治、青山亨、深見純生他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東方書店	5. 総ページ数 296
3. 書名 天変地異はどう語られてきたか 中国・日本・朝鮮・東南アジア	

1. 著者名 石井夕菜、桐原弘巨、田畑幸嗣他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 早稲田大学會津八一記念博物館	5. 総ページ数 54
3. 書名 世界をつなぐやきもの	

1. 著者名 原田あゆみ他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州国立博物館	5. 総ページ数 97
3. 書名 館蔵名品展更紗 生命の花咲く布	

1. 著者名 青山亨・田畑幸嗣他（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 310
3. 書名 南アジアと東南アジア ~15世紀	

1. 著者名 青山亨他（編・分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 特定非営利活動法人東南アジア埋蔵文化財保護基金	5. 総ページ数 87
3. 書名 チャウタン沈没船の考古学研究	

1. 著者名 青山亨他（編・分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 808
3. 書名 アジア人物史 第7巻 近世の帝国の繁栄とヨーロッパ	

1. 著者名 青山亨他（編・分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 808
3. 書名 アジア人物史 第1巻 神話世界と古代帝国	

1. 著者名 青山亨他（分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 748
3. 書名 イスラーム文化事典	

1. 著者名 原田あゆみ他（編・分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 NHK出版	5. 総ページ数 492
3. 書名 沖縄復帰50年記念 特別展 琉球	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>東南アジア古代史研究会 http://www.waseda.jp/assoc-history/ 東南アジア古代史研究会 http://www.waseda.jp/assoc-history/</p>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	原田 あゆみ (Harada Ayumi) (20416556)	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・課長 (82619)	
研究 分 担 者	田畑 幸嗣 (Tabata Yuki tsugu) (60513546)	早稲田大学・文学学術院・教授 (32689)	
研究 分 担 者	佐藤 桂 (Sato Katsura) (80454198)	武蔵野大学・工学部・准教授 (32680)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------